

令和4年度（2022年度） 本科卒業式 専攻科修了式 式辞

卒業生並びに修了生の皆さん、ご卒業、ご修了おめでとうございます。また、これまで皆さんを支え、励ましてこられたご家族・関係者の皆様、心よりお祝いを申し上げます。

この3年間、新型コロナウイルス感染症への対応が求められる困難な状況の中で、日々、学習や研究、クラブ・同好会活動、そして、就職活動や進学活動等に取り組み、卒業、修了を迎えられた皆さんに、お祝いの言葉を贈り、門出を祝したいと思います。

さて 皆さんが在学中に経験した新型コロナウイルスによるパンデミックは、大きな負の側面がありましたが、一方で、あらゆる分野のデジタル化を加速させました。製造現場でもデジタル化が進められ、遠隔での設計やシミュレーションを可能とする、そんな新しい“ものづくり”が、もう始まっています。このような急速なデジタル化は、製造現場だけでなく、産業や社会構造をも大きく変えつつあり、Society 5.0への変革を後押しすることにもなりました。

一方、欧州では、コロナ禍からの復興に加え、将来の「脱炭素経済」と「デジタル経済」に向けて投資を行っていく「グリーン・リカバリー（緑の復興）」が掲げられ、環境に望ましい製品、サービス、製造工程の確立や、温室

効果ガス排出の少ない知識産業の推進を、国が先導しています。日本では2021年6月に「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長」が策定されています。本校でも、気候非常事態宣言を発出し、Society 5.0に加え脱炭素時代の技術者育成に取り組み始めています。

このように皆さんは、デジタル化が益々加速し、かつ「地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような対応がされている社会」を目標とする世界で活躍することになります。

さて、これからのSociety5.0時代の技術者には、技術を駆使し社会を変え、前述の目標を実現させていく力があります。私は年頭のメッセージにて、本校においては、まず、将来の「志」に繋がる、自分が関わりたい技術が描く“近未来社会”の「夢」を持ってほしいとお話ししました。変化の激しい幕末に生きた吉田松陰は「志(こころざし)を立てて以て万事の源(みなもと)と為(なす)」と語っています。次のステージでも「夢」を持ちつづけ、そして、家族・仲間や社会とのかかわりの中で、「夢」を、困難をも乗り越えて具現化する「志」に昇華させて皆さんの自己実現を目指してください。

主役は皆さんです。本校での学びと経験に自信と誇りをもって新しいステージに進んでください。本校での学びを発展させ、技術的な知識や感性を、そし

て、自ら考え課題に取り組む力を磨き続けてください。皆さんが、私たちの社会が抱えている困難で複雑な課題に工学の知識を基に果敢に挑戦し、新しい時代を切り拓く技術者として活躍すること期待しております。

本校はこれからも皆さんを応援していきます。卒業、修了する皆さんには、母校を生涯の学びの場として、これからも積極的に活用していただけることを願っています。

令和5年3月20日

東京都立産業技術高等専門学校

校長 吉澤 昌純